

「第13句「吞舟非我口」の「吞舟」と、第14句「吐浪非我聲」の「吐浪」とについての考察」

「吞舟」と「吐浪」の語句については、「語釈」の頁で意を記しているが「吞舟」も「吐浪」も大魚である。「鯨鯢」を指している。そして、この対になっている二つの言葉は『文選』左思の「呉都賦」の「於是乎長鯨吞航、脩鯢吐浪」の一文を踏まえる。

この「呉都賦」の一文から窺えることは、「鯨吞航」は天下を丸呑みにする「逆臣」のことを指しているのであり、また「鯢吐浪」は讒言の言葉を吐く（好ましくない言葉を吐く）意と考えられる。

「第15句「哀哉放逐者」の「放逐」についての考察」

この「放逐」の語釈に投影されているものの考察として、既に滝川幸司氏より指摘がある所だが（後述）「白詩」<sup>1134</sup>和萬州楊使君四絶句競渡」を再度以下に全句載せてみる。

1134和萬州楊使君 四絶句競渡 （萬州の楊使君に和す 四絶句競渡）

競渡相傳爲汨羅 競渡 相傳ふ 汨羅の為にすと

不能止遏意無他 止遏する能はず 意他無し

自經放逐來憔悴 放逐を経てより來憔悴せり